



冬のオススメ本紹介

YA担当より

寒い冬がやってきましたね。外は寒空、でもお家の中はぬ〜くぬく。そんな時こそ読書はいかがですか？温かい飲み物などをお供にして、本の世界を楽しみましょう。

YA コーナーでは、ここに紹介した本の他にも、たくさんのおすすめ本を取り揃えています。あなたにぴったりの本が、きっと見つかりますよ♪

① 「負けないパティシエガール」

ジョーン・バウアー／著
灰島 かり／訳
小学館
YA書架 933バ



学校では落ちこぼれの女の子、フォスター。お菓子作りが大好きで、毎日必ずケーキを作るのが趣味。将来自分の料理番組をもつことを夢見ていますが、実はほとんど文字の読み書きができません。そんなある日、母親の元ボーイフレンドのハックとのトラブルが原因で、住んでいた街から逃げることになってしまいます。行き着いたのは刑務所のある街、カルペパー。そこでできた友人と様々な困難を乗り越え、彼女は夢に向かっていきます。困難を乗り越え、夢を追うことの素晴らしさを教えてくれる一冊です。

② 「かならずお返事書くからね」

ケイトリン・アリフィレンカ／著
マーティン・キャンダ／著
リス・ウェルチ／編
大浦 千鶴子／訳
PHP 研究所
YA書架 289ア

学校の課題がきっかけで、ジンバブエの少年マーティンと文通をすることになったアメリカの少女ケイトリン。手紙を通じて心を通わせていく二人ですが、二人の間には距離だけでなく大きな生活の差、貧富の差がありました。

貧困に苦しむ親友を助けようと力を尽くすケイトリンとその家族、そしてそれに全力で応えようと努力するマーティン。そんな二人と、周りの人たちが起こした奇跡とは…？

人を思い、行動する気持ちの素晴らしさが伝わってきます。

③ 「江戸のなぞ絵」

岩崎 均史／著
汐文社
YA書架 721イ



「判じ絵」って知ってる？江戸時代の人たちが“しゃれ”や“だじゃれ”を絵で表して遊んだもので、クイズ番組でも問題として出されているのを見かけるので、知らなくても見たことはある、という人もいるかもしれません。見てみると、そうきたか！と江戸時代の人たちの発想に思わず笑ったり、驚いたり、おもしろくて意外と奥が深い判じ絵。

みなさんも気軽にクイズを楽しむように、江戸時代の人たちが遊んでいたなぞなぞに挑戦してみませんか？

④ 「みるということ DIALOG IN THE DARK -暗闇の中の対話-」

ダイアログ・イン・ザ・ダーク／著
小学館
YA書架 141.2ミ

“見える側の世界”しか知らない人が“見えない世界”を体験したら何を感じるのか？

この本はそれが体験できるイベントに参加した人と、そのサポートをした視覚障がいがある人の、感想や対話の記録です。

ある体験者は「見えない世界を体験することで見えてくるものがある」と感じます。自分の常識や価値観に固執しなければ、世界はどんどん広がって行く…ということに気付かせてくれる本です。

YAとは…ヤングアダルトの略で、「子どもでも大人でもない世代」のこと。13歳から19歳くらいが主な対象です。

佐賀市立図書館

